

事業の名称：地域で行う多文化交流

|            |                                       |        |                           |
|------------|---------------------------------------|--------|---------------------------|
| 団体名        | うんなん・恵沢塾                              | 事業費    | 433,100円                  |
| 代表者        | 黒崎 寿夫                                 | 補助金交付額 | 200,000円                  |
| 構成員        | 12人                                   | 事業実施期間 | R1・8・6～R2・3・10            |
| 協働のパートナー部署 | 大東総合センター自治振興課<br>キャリア教育推室、政策推進課、地域振興課 | その他連携先 | 雲南市国際文化交流協会<br>大東国際文化交流協会 |

### 現状と課題

既に出雲市では多くの外国人労働者と家族が暮らし教育現場で3か国語での対応を行っている。

今後雲南市でも多文化の方々と暮らす時代に入っていると思います。

課題1.育った環境の違い(文化・教育・宗教)から生じる問題。

- 2.今後 進学・就職での英語のスピーチ力が問われる社会の中で、中山間地区で海外の人との交流環境の少なさが問題であり、環境整備が課題であると思える。

### 事業のねらい

集まりやすく、海外の人達と気軽に英会話が出来、様々な国の人々と交流が出来る環境作り ICTによるウェブ会議開催、駅に居て様々な国の人と交流が出来、リアルタイムに情報を得る事が出来、海外から見た日本、地域を知ることによる、視野の広さを、得ることが出来る。

学生、若者が自ら企画を考え進んで実行し、広い視野と柔軟な意識を持ち将来新しい地域創りの担い手となる、始まりの場所としたい。

### 実施状況

#### ◇実施状況

- ・中学生、高校生の活動受け入れ
- ・住民団体の活動拠点
- ・遠隔会議の実施
- ・企画の打ち合わせ場所

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

- ・教育現場との折衝参加の協力
- ・市との情報共有、情報提供

#### ◇今後の改善点等

- ・企画者が学生である場合の資金援助
- ・参加費が見込めない企画に対しての場所提供の資金
- ・情報の出し方
- ・教育現場との時間の共有、部活などでの日時の設定が難しい、専門の担当者の常駐。



留学生と地元学生の意見交換



住民団体との活動

様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：大東高校下宿生の受け入れ拡大に向けたシェアハウス・下宿運営事業

|            |                                  |        |                          |
|------------|----------------------------------|--------|--------------------------|
| 団体名        | 島根県立大東高等学校の通学を支援する会              | 事業費    | 4,591,136円               |
| 代表者        | 会長 安原 重隆                         | 補助金交付額 | 200,000円                 |
| 構成員        | 15人                              | 事業実施期間 | R元.8.5～R2.3.20           |
| 協働のパートナー部署 | 教育委員会キャリア教育推進室<br>大東総合センター自治振興課他 | その他連携先 | 大東町地域自主組織連絡協議会、大東自治振興協議会 |

現状と課題

大東町では雲南市立病院と大東高校の存在が地域の賑わいに大きな影響を持っている。少子高齢化により大東高校では昨年1クラス減の3クラスとなり、将来の存続が危ぶまれる。大東高校には寮がないため、県内他高校と比較して受け入れが十分にできない状況の中、昨年度は当会の下宿生は男子4名に倍増、今年度は男子6名に、また、民間下宿でも昨年度女子2名、今年度は女子3名と年々増加する傾向となった。課題としては、現状では毎日の食事提供等での人材及び人件費の確保がボランティアでは困難になってきている。受け入れ側の体制増に向けての大きな課題である。

事業のねらい

大東高校への圏域外からの生徒の受け入れを増やし、高校の存続並びに地域の賑わいを維持する。高校と地域がこれまで以上に連携を図り、高校の魅力化を図るとともに地域での受け入れ体制の充実を図る。

実施状況

◇実施状況

当会の運営する下宿については、今年5月定員限度の男子生徒6人が入居。また、当会と連携する民間下宿（女子専用）でも4月から定員4人に対し3人の女子生徒が入居することとなり、今後の受け入れに向けて新たな下宿の受け入れ策（食事をする場所を別に設け寝泊まり住処と分けた策）を検討してきた。

現在当会が運営している下宿を継続させながら、その運営経費等を参考に、大東町地域自主組織、商工会青年部大東支部等で組織した受け入れ準備会で新たな策の検討を実施した。現在、食堂の場所の選定について教育委員会と協議している。令和3年度から新たな下宿策を実施する予定。

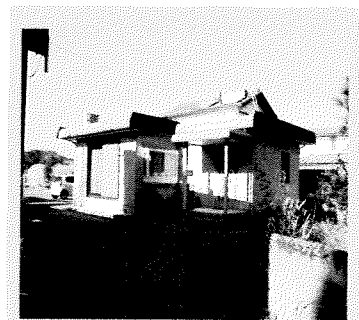
◇協働の内容（役割分担と成果）

当会では、民間下宿の確保と下宿希望者の受付とマッチング並びに自らの下宿の運営。地域の準備会では、新たな策の検討。後援会では、助成金の支払い。大東高校では、会計の処理。市（教育委員会キャリア教育推進室、政策企画部、大東SC）では、交流人口及び高校の魅力化の推進及び下宿策への支援。

支援する会自らが下宿運営を計画することで高校関係団体や支援者との協力関係が強化され、コメ提供等の支援の輪が広がった。地域自主組織、連合自治会や商工会青年部大東支部も参加した生徒受け入れのための検討準備会も発足し、地域全体で受け入れ策を検討。大東高校の存続を図り、連坦地の衰退を防ぎ少しでもまちを活性化させたいという機運が高まってきている。

◇今後の改善点等

これまでの下宿策については、平成29年度当初生徒受け入れ3名から、平成31年度当初は9名とり、一定の効果を上げているが、受け入れ人数に限りがあり、高校側から積極的に県域外の生徒受け入れの働きかけができない状況となっている。また、令和3年度から大東高等学校を中心とした松江FCユースの受け入れが検討され、早急に受入環境の整備を図る必要があった。今回の検討で令和3年から食堂と住まい分けた下宿策の方針がまとまり、次年度場所選定を行うこととなった。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：耕作放棄地対策による田舎米作り体験

|            |           |        |                           |
|------------|-----------|--------|---------------------------|
| 団体名        | 阿用の里山を守る会 | 事業費    | 104,593円                  |
| 代表者        | 恩田 守      | 補助金交付額 | 0円                        |
| 構成員        | 34人       | 事業実施期間 | 令和元年8月20日～<br>令和元年12月20日  |
| 協働のパートナー部署 | 農林振興部農政課  | その他連携先 | 阿用地区振興協議会、<br>アヨ有機農法塾、結の里 |

### 現状と課題

- ・地区内の耕作放棄された田んぼの維持や活用。
- ・阿用地区への定住促進や交流人口の拡大。

### 事業のねらい

- ・耕作放棄地を活用し、米作り体験をすることで、地域の田んぼを維持・活用していく。
- ・米作り体験をきっかけに、県内外からの参加者を募り、UIターン者が見込め、また、交流人口を増やすことで、地域の魅力を発信していく。

### 実施状況

◇実施状況 参加者：25名（県内外）

親子で稲刈りやハデ干しといった、昔ながらの米作り体験を行った。参加者からは「楽しかった」、「また来たい」との声をもらっている。また、地域でとれた野菜や米等の販売も、初めての取り組みとして実施した。

◇協働の内容（役割分担と成果）

団体：事業の企画、運営

市：事業への指導、情報提供

地域内の団体と連携し事業を実施することで、事業費を見直すことができた。また、協働事業の話し合いの中で生まれた、地元野菜や米の販売等に取り組むことで、事業を継続できる取り組みとなった。

◇今後の改善点等

参加者の中で、阿用の土地を探している方もあり、そういった方への情報発信などができる取組も加えていけたらと思います。また、地元野菜等の販売についても、興味を持っていただいております。地域資源を活かした取組についても検討していきたい。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：雲子ちゃんと一緒に、雲南の魅力発信事業 - ☆

|            |                     |        |                          |
|------------|---------------------|--------|--------------------------|
| 団体名        | 雲子ちゃんの会             | 事業費    | 217,069円                 |
| 代表者        | 若槻 佐知子              | 補助金交付額 | 200,000円                 |
| 構成員        | 11人                 | 事業実施期間 | 2019年9月4日～<br>2020年3月15日 |
| 協働のパートナー部署 | 政策企画部<br>うんなん暮らし推進課 | その他連携先 |                          |

現状と課題

市の刊行物に掲載され、雲南市内の若者やファミリーから少しずつ人気者になりつつある、雲南市非公式キャラクター「雲子ちゃん」。UIターンフェアでも、雲子ちゃんのぬいぐるみを見つけて反応する方を対応することもある。その一方で雲南市は交流人口・関係人口を増やしながら人口社会増を目指しているが、雲南市在住の若者世代は大学進学・就職を機に転出をする傾向にある。市外からUIターン者呼び込むにも、雲南市で減少している若者世代へのアプローチがうまくできていない状況である。

事業のねらい

雲南市内の作り手の皆さんと連携し、雲子ちゃんを製品化。製品化したものをUIターンフェアで対応した方に配布し、雲子ちゃんをPRする。また雲南市の非公式キャラクターとしてブランディングすることにより、雲子ちゃんの価値を高める。雲南市のことを知らない若者世代、雲南市の魅力が伝わり切れていない若者世代へ、雲南市非公式キャラクター「雲子ちゃん」をきっかけに雲南市の魅力を知ってもらい、雲子ちゃんファン・雲南市ファン（＝交流人口・関係人口）へ、さらに雲南市への移住へつなげる。

## 実施状況

### ◇実施状況

- ・UI ターンフェア用「かぶる雲子ちゃん」作成
- ・UI ターンフェア配布用クリアファイル作成
- ・LINE スタンプ作成
- ・ほっこり雲南インスタグラムでの情報発信



写真1

### ◇協働の内容（役割分担と成果）

#### ①役割分担

雲子ちゃんの会：雲子ちゃんの製品化

市の役割：情報発信

#### ②協働の効果について

雲子ちゃんの製品化によって、雲南市の非公式キャラクターとしての存在が確立された。特に「かぶる雲子ちゃん（写真1）」は、UI ターンフェアだけでなくケーブルテレビや各 SNS での告知時に活用したことで、多くの方に目にしてもらえた。

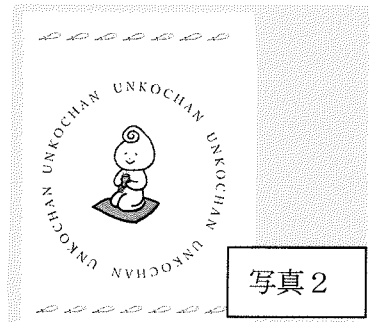


写真2

UI ターンフェアでも撮影されることや「かぶらせてほしい」とお願いされることもあった。クリアファイル（写真2）は、UI ターンフェアやその他イベントでのブース訪問者、うんなん暮らし体験参加者へ配布。実用的なものなので、反響があった。

### ◇今後の改善点等

雲子ちゃんの製品化から交流・関係人口の創出や若者世代への魅力発信の効果は感じられたが、県外で行う UI ターンフェアなど、移住者向けへの PR の機会が限られているので、UI ターンフェアに限らず移住定住関連の紙媒体での発信なども検討したい。

また移住者に限らず、雲南市に住む若者世代にも雲南市の魅力を発信したい。YOUTUBE での発信や SNS の活用、他団体と連携した雲子ちゃんの活用をしていき、PR 拡大を目指す。

事業の名称： 公園マルシェ&amp;遊びの空間づくり

|            |                        |        |                       |
|------------|------------------------|--------|-----------------------|
| 団体名        | ママじかん and お父さんと一緒      | 事業費    | 249,879円              |
| 代表者        | 代表 高木 奈美               | 補助金交付額 | 200,000円              |
| 構成員        | 13人                    | 事業実施期間 | R1.9.3~R2.3.23        |
| 協働のパートナー部署 | 建設部都市計画課、加茂総合センター自治振興課 | その他連携先 | 商工会青年部加茂支部、加茂まちづくり協議会 |

### 現状と課題

核家族の増加に伴い子育て世代の孤立や子育てしやすい環境づくりの重要性が増している。よりよい環境づくりのためには現在ある施設の活用を図ることが必要である。

### 事業のねらい

市民の憩いの場として整備された公園を活用した子育て世代のネットワークを活用したイベントを開催することで、子育て世代が公園に企画・運営側又は参加者として集い、地域の重要な施設であることを認識し、その重要性や今後の活用を考える機会を設ける。

### 実施状況

#### ◇ 実施状況

##### ①Let'sカーニバル公園マルシェ in 加茂中央公園

【日時】令和元年10月22日（日）10:00~15:00

【対象】主に市内の保護者と子ども等

【実績】来場者数 約2,800人

【内容】ダンス企画（みんなでパプリカを踊ってNHKへ、市内ダンスチーム）、飲食等ブース、外遊び企画（自然遊び、宝探し、ランバイク、ロープクライミング等）、ランドカー試乗運行

##### ②公園の清掃活動 令和元年10月13日（日）

#### ◇ 協働の内容(役割分担と成果)

##### 【役割分担】

提案団体の役割：企画、運営、出店者等手配、連絡・調整

連携団体（商工会）：人材・物品提供、外遊び企画・運営

（自主組織）：周知（チラシ配布）、人材・物品提供

市の役割：人材の提供、情報提供、警備調整、物品手配

##### 【成果】

・公園を活用して様々な体験活動の実施が可能であると、関係団体及び地区住民に示すことができた。

・「イベント楽しかった。またスタッフ参加したい」という声があり、子育て世代の新しい活動の場の一つになった

#### ◇ 今後の改善点等

・近隣施設、地元自治会等との交流も考えるべき。

・スタッフ等の負担が大きいため軽減策が必要。



様式第10号の3の1（第19条関係）事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】  
 事業の名称：タガメの里親事業

|            |                          |        |                         |
|------------|--------------------------|--------|-------------------------|
| 団体名        | 里山笑楽校                    | 事業費    | 221,120円                |
| 代表者        | 多久和 厚                    | 補助金交付額 | 200,000円                |
| 構成員        | 10人                      | 事業実施期間 | 令和元年9月26日<br>～令和2年1月31日 |
| 協働のパートナー部署 | 市民環境部環境政策課<br>政策企画部地域振興課 | その他連携先 | 公益財団法人ホシザキ<br>グリーン財団    |

### 現状と課題

コウノトリが雲南に安定して生息していくためには安全な食べ物が豊富ある環境づくりが必要であるが市民の一部を除き無関心である。誰でも取り組める身近な活動が必要である。その為、市民にとって最も身近にある田んぼ（耕作放棄地）を活用してビオトープをつくりタガメが生息できる環境を復活させてモデル事業としたい。

### 事業のねらい

本事業はタガメを象徴的な題材として取り上げ、この個体を増やす活動をする事で市民が環境問題に関心を寄せ「人と自然が共生する雲南のまちづくり」を推進することがねらいである。

### 実施状況

#### ◇実施状況

耕作放棄地を活用したビオトープづくりや、ビオトープの環境が守られるように看板を設置した。また、小冊子を作成し、今後、学校や地域内外での環境教育に取り組んでいく。

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

第2回環境会議にてパネル展示し、タガメの里親プロジェクトについて紹介した。約50名が来場し、市民への環境保全意識の啓発につながった。

#### ◇今後の改善点等

環境活動は目の前の利益を生まない。また、長期に継続しなければ結果が出ない。持続可能な活動を展開するには、何よりも「楽しい活動」であること。そして「環境保全」と「農業生産」を両立させることである。課題解決を目指して活動を継続していきたい。



看板の設置



荒れ地が新たなビオトープになる